

第14期生入学!生徒主体の歓迎会挙行!!



2026年 4月24日(金) 撮影

令和8年4月24日(金)に第14期生の歓迎会が開催された。新たに看護医療・健康類型に40名の仲間が加わってくれた。将来医療職を目指す人達が、高校生の間から他者と出会い、関わることで悩み、成長する場所がこの看護医療・健康類型。自分とは違う人達との関わりを通して、「人」について学び、感じることで「非認知能力」と「感性」を磨くことができる。この歓迎会も悩みつつ、生徒が自分達で企画・運営を行った。当日は先輩が中心になって空気を盛り上げ、この類型らしい「人のつながり」にあふれた空間が、そこには広がっていた。看護医療・健康類型には「3種類の人のつながり」がある。まずは「学級の横のつながり」。次に「類型の縦のつながり」。そしてボランティアや授業を通じた「地域とのつながり」。「人のつながり」にあふれたそんな素敵な学びがある場所。新しい仲間を加え、今年も類型一同、精一杯頑張っていこう。

答えのないものを考える 担当者のつぶやき

13期生(2年生)は探究学習が本格的に開始した。班編成は「在宅療養」、「発達障害」、「臓器移植」、「子ども」、「減災」合計9班。問を立て、答えを探し、また新たな問いを立てる。**探究学習は「正解」の先にある「真理」を探し求める営み。**さらにACPやコミュニティコーピングで地域や自分と異なる立場の人について学んだあと、毎週、意見表明を行っている。ある生徒が「聴くことは一番簡単で、問題が大きくなるのを防ぐ最強の予防策だと思います」と意見表明をしてくれていた。対話や傾聴は、誰でも始められる。共にエンパシーを磨こう!

12期生(3年生)は「尊厳死・安楽死」について学びながら、「人が生きること」に向き合っている。「人の尊厳」に対し、様々な立場の価値観に触れながら、「人の尊厳とは何なのか」、「誰が決めるのか」という答えの出ない問いについて考える。「自分なら、家族なら、医療従事者なら」と違う立場で考え、「社会としてどうあるべきか」と構造の視点に至る人もいた。カッコよくとても頼もしい。類型の学びの集大成が3年生。「答えのないものについて考える授業」を通して学びながら、「ケアすることの意義」を自分のものにしてほしいと思う。

【正解の先を目指す類型。それが看護医療類型。】

正解が見えにくい時代なのに、正解を求められる社会に生きている。受験の勉強や日々の学習と同じように、医療現場はまず「正しい知識、技術」があるのが大前提。だから学校で知識や正確さを高める訓練を行っている。でも「正しい、間違い」だけで図れないのが人間と思う。常に「一貫した人」など存在しないし、人それぞれ違う。「ACP」「尊厳死や安楽死」も同じで、身近な例ならば絶対に正しい人間関係やコミュニケーションなどない。だからこの類型は「正解を求めていく認知能力」と共に、「正解のないものも捉えられる非認知能力」も磨く所。

【正解の先を目指す類型。それが看護医療類型】

多くの学びが学校にある。挑戦すれば、失敗もする。その中に正解だけでは得られない学びが隠されている。一度決めたら固定される答えではなく、繰り返し悩み、考え、更新されていく中に「人の成長はある」と思う。「人は、人の中でしか生きていけないから人間」という。「人のつながり」を武器に、「人を支えるとは何か」を他者との関わりの中で、一緒に学び、高めていこう。